

あいさつ



同窓会会長
神谷政義
(農農学・S41年)

農学部同窓会員の皆様には、日頃母校の高等教育の充実・発展のために格別のご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、私は去る4月に開催されました役員会・幹事会の席上におきまして、前任水野会長の後任に推挙されました。職責の重大さを痛感しています。会員の皆様のご支援をいただきながら微力ではありますが、農学部同窓会の発展のために全力を傾注する所存であります。

私は、41年3月鷹来校舎で卒業を迎えました。当時は、天白校舎とは比較できない施設・設備のなかで、創意工夫をしながら学んだ記憶があります。農学部同窓会は、平成17年度に創立50周年を迎える年となりました。

母校は、皆様もご承知のとおり、大きな大学教育改革のうねりの中で、将来を見据えた改組が推進されています。農学部は、現在、応用生物化学科、生物資源学科の二学科が設置されていますが、来年度は、新しく生物環境科学科の増設が予定され、学生募集定員が各学科共に100名となります。母校は、中部地区唯一の総合大学として、また高等教育の最高学府としての使命にたって躍進を続けています。会員の皆様には、奮って50周年を祝い、同窓としての絆を一層深めてほしいと願っています。

今年、50周年事業準備委員会を設置し、記念事業の準備を進めていきたいと考えています。会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いします。と共にご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

同窓会総会開催

平成16年5月15日(土) 午後4時から名城大学天白キャンパス共通講義棟S302教室において、平成16年度農学部同窓会を開催した。神谷・新同窓会長から総会開催あいさつと趣旨説明があり、続いて新井校友会会長様と新居農学部部長様から祝辞が述べられた。

引き続き、岡留恒丸教授により、衛生害虫としてのハエについて記念講演が行われた。会場では昆虫学研究室の卒業生を中心に80名以上の会員が熱心に聞き入っていた。

午後5時から会場をタワー75の15階レセプションホールに移し、懇親会が開催された。水野・前同窓会長のあいさつに続き、松田名城大学理事の発声により乾杯が行われた。久々に再会した会員がそれぞれ昔話に興じていました。



▲農学部同窓会総会で岡留恒丸教授が記念講演を行った。(名城大学天白キャンパス 共通講義棟にて)



▲農学部同窓会総会後の懇親会(名城大学タワー75にて)

学部だより

人事異動

退職

昆虫学研究室
家畜資源学研究室

(平成16年3月31日)
岡留 恒丸 教授
伊藤 良三 助教授

岡留先生は昭和31年に名城大学をご卒業後、応用昆虫学研究室の助手に採用され、昭和54年に大阪府立大学で学位を取得され、昭和57年に教授に昇格されました。約半世紀の間、農学部と昆虫学研究室を支えてこられました。

伊藤先生は昭和28年に名城大学をご卒業後、31年に畜産学研究室の助手に採用され、昭和46年に助教に昇格されました。半世紀にわたり農学部の歴史

の一部始終を見守ってこられました。なお誠に遺憾ながら、家畜資源学研究室は伊藤先生の退職を以って幕を引きました。



(平成16年4月1日)

採用
植物分子遺伝学研究室 森上 敦 助教授
環境動物学研究室 新妻 靖章 講師

森上先生は遺伝子配列が解明されているシロイヌナズナを使い、根がどのように形成され、どのように栄養分が蓄積されるのか、などの課題に取り組んでおられます。新設の植物分子遺伝学研究室を發展させてくれることでしょう。

新妻先生はウミスズメという小型の海鳥が北極の冷たい海の中で長時間潜水しても体温を維持できる謎の解明に挑戦しています。環境動物学研究室で、鳥や哺乳類に関心がある学生を指導されます。

学部改組

農学部は平成17年4月より3学科体制の改組を申請中です。これまでの生物資源学科(旧農学科)と応用生物化学科(旧農芸化学科)に、生物環境科学科が新設されます。学生定員も増え、各学科とも100名になる予定です。

各学科は次のように、それぞれ7研究室から構成されます。生物環境科学科(環境動物学、環境土壌学、環境微生物学、環境分析化学、植物機能科学、植物保全学、ランドスケープデザイン学)。生物資源学科(遺伝育種学、園芸学、昆虫学、作物学、植物分子遺伝学、植物病理学、生物資源経済学)。応用生物化学科(応用微生物学、栄養・食品学、食品機能学、生物化学、生物物理学、天然物有機化学、農薬化学)。

農学部5号館ともお別れ



農学部5号館が近い将来取り壊されます。天白1号館跡地に建設中の共通講義棟北館が来年(平成17年)夏に完成しますと、5号館の北半分が取り壊しとなり、18年には完全に取り壊されます。